

2

トークス
Talks

富里市区長会
区・自治会長インタビュー集



は じ め に

「答えは富里の中にある」

令和3年。新型コロナウイルス感染症拡大により、区・自治会活動は大きな制約を受け、これまで以上に区・自治会活動を行うことが難しくなりました。

そのような中、富里市区長会では、市内の区・自治会活動の一助となる事業を模索していました。

「他の街の事例を紹介する講演の依頼を考えている」と、杉山さんにお話ししたところ、

「他の地域の事例を学ぶのも良いことですね。でも、富里の皆さんから学びましょう。富里市の自治会は立ち上げから独自の歴史を持っているので、現場で奮闘されている皆さんの実践の中にこそ、本質と未来があります」と。

こうして始まったのがこのインタビュー事業でした。

令和5年度は、5名の区・自治会長の皆様にインタビューをさせていただくことができました。インタビュー集「Talks」、トークイベント記録集「Talks+」とあわせ、本書「Talks2」が地域活動に関わる皆さんの活動の一助となれば幸いです。

おわりに、インタビューを快く引き受けてくださった区・自治会長の皆様、インタビュー事業に御協力いただいた杉山様に感謝申し上げます。

令和5年10月 富里市区長会



インタビューアナー紹介

すぎやま みきお
杉山 幹夫



信州大学農学部在学中から農村や共同組合の調査を通じ、住民や地域の企業のネットワークの研究を行う。

札幌市の観光案内サイトの編集長をしながら、イベントプロデュース。地域ブランドの研究を東京大学情報学環で行ったあと、和歌山大学の客員教授として、産業振興、観光による地域振興、住民による情報発信などを研究。

札幌で北海道中小企業ネットワーク・地方自治研究所を立ち上げ。現在、沼田町関係人口創出アドバイザー、宝水ワイナリー取締役など。



富里市区長会
区・自治会長インタビュー集

目次

- スカイハイツ自治会
自治会長 佐藤 松之さん ……P 2
- 新中沢自治会
自治会長 進藤 陽一郎さん ……P 4
- 葉山区
区長 瀬尾 明良さん ……P 6
- 根木名ニュータウン自治会
自治会長 長谷川 英利さん ……P 8
- 日吉台5丁目北自治会
自治会長 渡辺 邦孝さん ……P 10

スカイハイツ自治会

自治会長 佐藤 松之さん

に聴きました



■佐藤さん、お生まれはどちらですか？

奈良県の生まれだけど、父が若くして亡くなったから、4歳の頃からは宮崎県の日之影町って田舎の父方の祖父母の家で。母親と兄弟6人でね。何でも売ってる街のよろず屋をやってたんだけど、酒の量り売りで立ち飲みもできる店で、「お前たちが生活していけるのは、お客さんのおかげなんだよ」って、ばあちゃんによく言われながら接客してたね。お客さんを招待する宴会もよくやってたから、その時は子どもながらに接待もね。

そんな経験をしてきたから、集まり事が好きで、昔から宴会屋というか、お祭り屋気質で、自治会でやる祭りやイベントが今でも大好きでね。

■どんな学生時代を過ごしていましたか？

隣町の高千穂高校の寮に入って、勉強もしないで、バレーボールばかりやってたね。自分の高校では、エースアタッカーだったけど、県の代表だとみんな自分よりも背が高くて凄いスパイクを打つのが沢山いたからセッターで。その頃、全日本の猫田選手に教わったこともあるんだけど、今の若い人は知らないか(笑)。

就職しても30歳の頃までは社内の親睦だけど続けてたね。生意気な新人だったけど、バレーボールのおかげで先輩に可愛がってもらったな。

■空港関係の仕事に就くきっかけは？

かあちゃんに「妹2人がいるし、6人兄弟のお前だけ大学へは行かせられない」って言われて就職することにしたんだよね。

添乗員になりたくて、2番目の兄に相談したら、「添乗員は大変だからやめとけ」って。カチンときて取っ組み合いのけんかになったんだけど、負けてね。それで、添乗員は諦めて、結局、試験で羽田に遊びに行けると思って受けたAGSという企業に就職することになったんだけど、就職試験は福岡空港だったね(笑)。

■空港ではどんなお仕事を？

社名のAGS (エアポート・グランド・サービス) そのままで、空港の地上に関するサービスのほとんどをカバーする日本航空の関連会社でね。

成田空港勤務を前提に昭和45年に入社して、羽田で研修が始まったけど、最初は大変だったよ。高卒間もないし、英語なんてほとんど勉強してないのに、プロジェクトチームに入れられちゃって。当時、最新の747 (ジャンボジェット) の就航が決まられてて、整備を時間内で終わらせるのに何人必要か考えてマニュアルも作れと。それも2か月の間に。辞書を片手に、いくつもの英語の分厚いマニュアルの単語を一個ずつ訳して、やるべき事と、やっちゃいけない事を把握することから始めて。

上司には、「そこまで細かく作る必要があるのか」って言われたけど、「メンテナンスはマニュアル通りにやんなきゃダメだし、マニュアルがないと動かない奴もいる。やってみて手直しすればいいんだからって」喧嘩したね。でも、ほんとは、いいかげんが好きなんだけどさ(笑)。

■自治会活動に参加するきっかけは？

前会長とは元々、職場で知り合いだったんだけど、スカイハイツに引っ越してきたら「あれ、ここに引っ越してきたの？」って。それで「お前、副会長やらないか」と言われて、それから。それが平成7年だから、もう30年近くになるんだね。

ここはマンションだから、管理組合が別にあって、建物の管理はそこが全部やってくれるんで、我々は人を集めて、宴会(笑)。じゃなくて、祭りやイベントなんかで人が集まって楽しく話ができる場所を作るってところを任されているから、マンションのプールでそうめん流しとか、「さんま200匹食い尽くす会」とか、職場の人まで巻き込んで色々やってきたね。

■お話を伺っていると、頼りがいがあって、何でも許してもらえそうな感じがします。

そう言ってもらえると嬉しいね。子どもの頃、店で接客しているとトラブルは付き物で、そのたびに「ごめんなさい」って謝ってたからね。「人は失敗するもんだ。失敗したらやり直せばいいんだ」って思ってるんだよね。だから部下にも、「ミスを隠さないこと。絶対に言いなさい。最終的に俺が責任は取る。だから自由にやれ」ってよく言ってた。上司に委縮してたら、良い仕事なんてできないんだから。「自治会のことでも何でも楽しんでやらないと」って思ってるんだよ。

■自治会活動をやってきて思うことは？

「若い人にやらせないといけないとか、高齢化が問題だ」ってよく聞くんだけど、それを言ってるのが問題なんだよ。そこにいる人でコミュニティを作るしかないんだから。やれる人がやれる事をすればいいんだよ。

「役員は一生やるんだよ。もしもの時は、弔辞で、役員のを解くって、言ってやるから」って、よく冗談で言ってるんだよ(笑)。

■若い人たちへの配慮は何かされていますか？

うちの自治会は、会長、副会長、会計だけは決まってるけど、その他の役員の数は決まってないんだよ。何をやらせてもらってもいいから、やれる人はみんな役員にしちゃう。役員をやらせるときは、「まず家庭を大事にしてください。その次、仕事です。それから自治会活動です」って言って。ちょっと嘘だけさ(笑)。

イベントをやる時も、「当日だけ仕事の都合をつけてくれないかなあ。準備は俺たち暇な爺ちゃんが全部やつくから」って言って、なるべく参加してもらえようようにすることを考えてるかな。

あとは、コロナもあって、役員の連絡にLINEを使うようになったね。俺は全然わかんないから、設定は得意な人に全部お任せだったけど(笑)。

■これからの自治会活動でやりたいことは？

「これから少子高齢化で人が減っていくだろうけど、今までやってきたことを継続させるために4丁目にある自治会が一つになって4丁目自治会を作ろうよ」って、みんなとは話してる。集まれば役員を減らせるし、祭りの範囲が広がって、みんなで楽しめるし。

それから「祭りでも何でも、困ったことがあったら言ってよ、応援に行くから」って、自治会同士で助け合いができるような繋がりが富里市内で広がるといいなって思うんだよ。

■松之さんとお話していても、後継者の話とか、高齢化の話とか悲観的な言葉が全然出てこなくて、自治会が本当に楽しむ場所になっているということが伝わってきました。

記事に書けないような楽しいお話もたくさん聞かせていただき、ありがとうございました(笑)。



新中沢自治会

自治会長 進藤 陽一郎さん

に聴きました

■団地の中にごみも落ちていないし、空き地も綺麗に草刈りされていましたね。

ありがとうございます。犬を飼っているのでよく散歩するんですけど、ごみはあまり落ちていないですよ。年1回のごみゼロ運動の日もごみがほとんどないから、やってもらうのも気が引けるぐらいですね。

空き地の管理は、駐車場や集中浄化槽の管理とあわせて管理組合がやっているんです。空き地の草刈りは自主的に手を挙げて、登録してくれた30名ぐらいの草刈り担当が、定期的に刈ってくれています。役割が明確だと、協力してくれる方も意外と集まるんですよ。

■会員は何名ぐらいですか？

新中沢自治会は、富里市と八街市にまたがっていて、9班まであるんですが、1班から7班までが富里市になります。252世帯が加入されていて、未加入は12世帯ですね。ほとんどの方が加入されていますけど、新しく入居される方に、自治会管理のごみの集積場所が使えるってこと以外のメリットって、伝えにくいんですよ。昔は、子ども向けに太鼓とか冬には豚汁を作ったりもしていましたけど、今は子どもも少ないですから。

私が思う一番のメリットは、人との繋がりができるということだと思っています。月1回の清掃活動があるんですけど、そういった時に顔見知りになって、付き合いが始まるきっかけになるんですよ。今は、隣の人を知らないという人も結構いますが、夏祭りなんかをやると、若い人も結構参加してくれるから、今年、祭りが復活できれば、自治会の存在意義を感じてもらえるんじゃないかと思っています。

■自治会活動はいつ頃から？

会長になる前の2年は副会長、その前は班長や書記とかで、ここ10年ぐらやってますね。その前に、確か47、8歳の頃に順番が回ってきて、班長はやったことがありましたね。でも、当時は、通勤に2時間半ぐらいかかっていましたから、自治会のことなんて、まともにできる状況ではなくて、全然関心がなかったんです。祭りも「ああ、今年もやってんな」ぐらいで。

班長だった時の毎月の班長会議も退屈で仕方なかったですね。20分もあれば終わりそうなのに1時間もかかっていましたから。そういうイメージがあるからか、最近では、次の班長さんがすんなり決まらなかったり、班長になるのが嫌で自治会を辞めてしまった方もいましたね。

■班長さんはどんなことを？

回覧とか集金、それに毎月の清掃活動と定例会に参加してもらっています。あと、自治会館の隣の公園の芝刈りもありますね。その芝刈りは、今までは全部班長さんをお願いしていたんですけど、副会長さんからの提案で、平面の部分は

我々がやろうと。残りの斜面だけを班長さんをお願いすることにして、少しでも負担を減らすと
いうことをやっています。若い頃の経験があるので、
班長会議もなるべく短時間にして、来てくれている
若い班長さんが、暇そうにしていなか顔を見て、
なるべく意見を聞くようにもしていますね。

■自治会長として心がけていることは？

特に気をつけていることはないんですけど、
あえて言うなら、リーダーシップを発揮しすぎない
ということですかね。今の副会長さんがすごく
いい人で、よく動いてくれるんです。だから、
あんまり動かないです、私（笑）。

なるべく、やっていただける方にお任せする
ようにしていて、この前も、防災規則を変えたら
どうかという意見があったんです。私にはまったく
書けないですから、消防関係の班長さんがいたので、
その方に案を全部作ってもらいましたね。

■進藤さんの自然体で話しやすい感じはどこで 身につけられたのでしょうか？

思い返してみると仕事でしょうかね。損害保険
の会社で長く営業をやっていて、相手の要望とか
思いを聞くということはやっていたね。50歳
ぐらいからは、コンプライアンス関係で監査を
やっていました。コンプライアンスって、法令順守
とかって言われますけど、企業価値を上げるため
に社内でどういう理念を持ってやっていくのか
ということなんです。社内で問題が起きていないか、
各支店を回って、社員と支店長、支社長とそれぞれ
から話を聞き取って、話していることに乖離が
ないかを確認していくんです。

退職するまでの14年間、そんな仕事をさせて
もらっていたので、自治会でもお話を聞いていると、
この人にはこれをお任せできるなとか、ある程度は
分かる気がするので、今の自治会活動にも少しは
活かしているのかなと思います。

■自治会活動と資産価値について考えること ってありますか？

前回のトークスやその後のトークイベントで
キーワードとして出てきていましたよね。『資産
価値』という言葉を意識して目にしたのはその時が
初めてでしたけど、確かに、ごみが落ちていたり、
空き地に草がたくさん生えてる街なんかには
引っ越してこようと思わないですよ。

資産価値と言えば、管理組合を30年もやって
いる方が、そろそろ引退するということで、これ
までを振り返って書いた物を最近読んだんです
けど、そこに「管理組合がちゃんと仕事をして、
皆さんに管理費をちゃんと払ってもらって、浄化槽
をしっかり守っていくことが資産価値を上げる」
って、書いてあったんですね。昔は、その組合長
とは喧嘩することもあったんですけど、「あいつ、
すげえこと書いてんな。そんなことを考えながら
30年も管理組合のことをしてくれていたんだ
なあ」って、見直しちゃいましたね（笑）。

■自治会や団地の管理組合が真剣に自分たちの 資産価値を上げることを考えている街って、 いい街になるんですよ。

これまで富里で色々な方にインタビューさせて
いただいたことで、逆に私もそれを教えていた
だきました。皆さんが頑張ることで富里全体も
いい街になっていく。まさに、地方自治の源泉
は自治会にありってことなんですよ。

綺麗だし住みやすそうだと思って、ここを選んだ
わけですからね。みんなでその資産価値を下げない、
上げていくということが、自治会の皆でできる
ことであり、メリットなのかもしれませんね。



みはらし公園



葉山区

区長 瀬尾 明良さん

に聴きました

■ご出身はどちらですか？

葉山の生まれです。自衛隊だったので、20年ここを離れていたんですが、また戻ってきました。両親は、満州からの引き揚げでここを開拓した農家でした。子どもの頃は手伝いもしないで、よく木の上に基地を作って遊んでましたね。当時は、自然豊かで、虫も飛んでいて、今では考えられないと思いますけど、赤ガエルを捕まえて、火の中に突っ込んで、丸焼きにして食べたりもしましたね（笑）。

■自衛隊ではどんなご経験を？

市ヶ谷、木更津、四街道、朝霞の駐屯地を回りました。私、レンジャーを出ているんですけど、人間の限界を経験しましたね。食べられないのもきついですけど、寝られないのが特にきつかった。今じゃすっかりなまくらですけど（笑）。

東日本大震災の時はもう定年していて、次の職場の都合でボランティアにも行けなかったんですけど、西伊豆で行方不明者の捜索を経験しています。

■そんな方が区長さんだと、心強いですね。

自衛隊で色々な経験をしてきたので、葉山でも防災訓練をやらうと声を上げて、前の区長の頃から始まったんです。富里は比較的災害は少ない

ですけど、2019年の台風19号の時はかなりの被害が出て、習志野から自衛隊が来て倒木の処理とかをしてくれましたね。

消防団もね、なんで必要なのかといった声も聞きますよね。行方不明者の捜索は自衛隊がやりますけど、そのあとは、地元の消防団にお任せすることになるし、火事の時も、消すまでは消防署がやりますけど、そのあとの処理は消防団が担ってくれるんですからね。地域にとっては欠かせない大切な存在ですよ。いざという時は地域の皆で力を合わせないといけませんからね。

■葉山区の特徴は？

葉山には、御料牧場が広がっていたので、戦前からの方は少ないんです。戦後の昭和22年に開拓で入った双葉開拓農業協同組合（双葉会）と葉山開拓農業協同組合（葉山会）のグループ、昭和44年に空港の代替地として来た方たち（三和会）、昭和47年にできた東京航空食品（TFK）の社宅のグループがあって、そのグループを基準に今でもブロックとして地域を分けていて、そのブロックを基に区の運営がされています。そんな色々なルーツを持つ人がいて、面積も広いんですよ。それに最近はアパートも多くなりましたね。

■意見をまとめるのが大変そうですね。

色々な意見が出ますね。葉山に大きな商業施設ができる予定なんですけど、便利になるから賛成だという方と環境が変わってしまうから反対だという方がいます。それに若い世代と我々の世代でも考えが違ったりしますし。

夏祭りは、私が前に区長だった 2019 年を最後にコロナで中止になっていたんですけど、今回また私が区長になって再開できるなと思って、皆にアンケートをとってみたら、やらないと。来年以降もやらないという結果でした。

■お祭りは古くから？

そうですね。始まったきっかけは、昭和56年の佐藤区長の時に、4つのグループの住民同士が融和する機会を作りたいから、盆踊りをみんなでやろうと。盆踊りのやぐらは、たくさんの方が助け合いながら組むことになるし、太鼓さえあれば誰もが楽しく踊れるってことで。

今でもその太鼓は、双葉の「むつみ会」として受け継がれています。4つのルーツの住民を『睦み』それを広く伝えていくためには、子どもたちにも教えていかなければならないから、読みやすくひらがなにしました。私は双葉の人間だし、そういう想いから始まった祭りなので、なんとか残したいなって思うんですよ。

今年の祭りは中止でしたけど、お盆に有志で集会所に集まって、太鼓を叩いてみました。区の行事ではないので、回覧はしませんでしたが、太鼓の音を聞いて、30人ぐらいは自然に集まってきましたね。お祭りが好きな人は意外と多いんですよ。

■若い世代の方の加入は？

他の自治会でもそうだと思いますが、アパートの若い方は中々入ってもらえないですね。でも、お祭りをやるとアパートの方も参加してくれるですよ。区費はもらっていないので、区民ではないかもしれませんが、でも、アパートのオーナーからは事業協力金という形でいただいているので、区費を払っているか、いないか、だけで線を引かずに、同じ葉山に住むアパートの方たちの声も聞いて、何か還元したいと思っていて、いい方法はないかと考えたりしています。

■すごく柔軟なお考えだと思います。

何でも「ダメだって書いてなければOKなんだよ。グレーはホワイトだよ」って考えたいんです。ダメって書いてあるものはダメですけどね（笑）。アパートにいる人の命が軽いわけじゃないし、逆に担い手として、助ける側に回ってもらえるとか、そういう若い世代がたくさんいるってことですよね、この地区には。

そういえば、父親と空港関係の仕事で葉山に来ていた子が、むつみ会の太鼓の音を聞いて、初めは集会所の垣根から覗いていたけど、2回、3回と見に来るようになって。それから練習に参加するようになったんです。その後、その子のご両親は別の場所に住もうと思っていたんですけど、葉山に家を建てて住んでくれたんです。当時3歳だったその子は、今では18歳になって、子どもたちに太鼓を教えて、歴史を繋いでくれているんですよ。

そんな子たちがこの地域を運営していってくれるようになることを考えることが必要かもしれませんね。何かこれからのヒントを頂けた気がします。今日は、ありがとうございました。



むつみ会

根木名ニュータウン自治会

自治会長 長谷川 英利さん

に聴きました



■色々な肩書をお持ちだと伺いました。

そうですね。普段は過去を振り返らないタイプなんですけど、今回こういう機会をいただいたので、今まで何をやってきたか振り返りながら、今の肩書を数えてみたら23もあって、びっくりしました。自治会長もそうなんですけど、自分から手を挙げたものはひとつも無いんですよ。

自治会長は、私が副会長の時に会長が亡くなって、それで後を継ぐことになりました。ここの役員の選出方法は変わっていて、任期2年で、総会出席者の無記名投票で選ばれた人が必ずやる。それで、選ばれた会長が副会長以下を指名するんです。そんな形で毎回選ばれて、23年が過ぎました。

■どんなご家族でしたか？

父は無口な人で、建築関係で働きながら資格をとって一級建築士になりました。お袋は、一言で言うと女傑ですね。まったく動じない人。ある時、夜中に泥棒が入ったんです。そしたら、泥棒に説教して帰りましたからね(笑)。兄弟は、8人兄弟で上4人が姉、下3人が妹。ちょうど真ん中で男1人。姉同士はくっついて、妹は妹でくっついて、よく上下で女の戦いが(笑)。私がどうしてもその中和、繋ぎ役というか。争いが起こるとお互いの言い分を聴いてあげて、対立を和らげる。聴いてあげるだけで、ある程度収まっていくなですよ。

■富里には？

三井銀行に就職して、目黒支店で妻と出会って結婚しました。上の子が2歳の頃、大阪に転勤になったんですけど、妻は福島県川内村生まれの、のんびりした性格なので、関西という土地柄に合わず、疲れてしまって。それで、取引のあった松戸のデベロッパーに出向という形で戻る事を決めました。同じくらいの子供がいる妻の姉さん夫婦がこちらに住んでいて安心だったので、富里で暮らすことしたんです。

■子どもの頃は？

高校と大学、社会人でも野球をやっていました。少年野球もやっていました。父の仕事の関係で小・中学校の頃に4回も引っ越したので、同じ子と1年しか一緒にやれなかったんです。そんな少年時代だったので、故郷と言える場所がなくて、幼馴染もいないんですよ。だから、子どもたちの故郷になる富里をいいところにしてあげたくて。

妻も富里のためにという気持ちが強いんです。10年以上前に、妻が1年間自宅療養していたことがあって、その間は食欲が全くなかったんですが、スイカだけは食べられて。時期になれば富里はたくさんありますけど、その時期以外は本当にスイカを探しまくりましたよ(笑)。良くなってきてからは、全身運動のフラダンスが体にいいってことで、教室に通い始めました。今では自分でフラダンスの教室を開いて子どもからお年寄りまで教えています。「私は富里のスイカに救われた。だから富里に恩返しをするんだ」ってよく言っています。

■自治会長になられた当時はいかがでしたか？

自治会長になったのは44歳の時で「若いくせに生意気だ」って思う方もいたみたいだったので「言いたいことは何でも言ってください。でも、陰で言うのだけはやめてください」って言った事がありましたね。話を聴くのは得意なんでね(笑)。

「縁があってここを終の棲家にしたんだから、皆で仲良く暮らせるように、良い環境にするつもりだから」って宣言してからは、色々な方が話に来てくれるようになりました。ご病気の事とか「人には言いたくないけど、会長にだけは知っておいて欲しい」って言ってくださることも結構ありますね。

■話を聴く力はどこで？

8人兄弟で育った環境もありますけど、銀行の営業時代に学んだことが大きかった気がします。土地を売ってもらうために提案書を持って行くんですけど、商店街のおやじさんとかには、お世辞を言われるだけで、なかなか腹を割ってもらえなくて。何回も通って話を聴いていると、実は過去に嫌な思いをして、銀行に対する不満を持っていたりするんですよ。1対1の人間として信用してもらうしかないですから、そんな話を全部聴きました。「銀行は嫌いだけど長谷川さんならいいよ」と言ってもらった時は本当に嬉しかったですね。何が問題なのかをしっかりと聴いていかないとうまくいかないんですよ。これは自治会でも同じことが言えるのかもしれないですね。

■団地の管理組合法人の理事長にもなられているんですね。

理事長になったのが今の会社の社長になった時期と重なったので、忙しかったですね。防犯灯や共同アンテナの管理をしていますが、地デジに移行する時期とも重なって。ここは元々旧ラディソンホテルの建物の影響で、ホテルの屋上から団地までケーブルを引いてもらっていたんです。

最初は「地デジは建物の影響を受けないから、そちらで対応してほしい」って言われてしまって。何とかするために総務省に相談に行ったり、デルタ航空の太平洋総支配人に直接交渉したりしましたね。最終的には、ホテルからではなくて近くの根木名小学校の隣接地にアンテナを立てて、そこからケーブルを引けば1,000万円必要だったものが1/4ぐらいで出来るからって案を提示したら、設置してもらえました。

■自治会の活動で楽しいとか、良かったと思うのはどんな時ですか？

やっぱり行事でしょうね。今年、根木名学区連合会で合同納涼祭をやったんです。5年ぶりの開催だったし役員の各自治会長も毎年変わる方が多いので、不安もありましたが、続けてできる役員の人数を増やして、その方たちがリーダーシップを発揮できるようにして企画しました。最近はコロナで話をする機会も少なかったので、すごく喜んでもらえたと思います。

■時代の変化を感じることはありますか？

子どもの数が減って学校のボランティア活動の人数が集まらないとか、不審車両が気になるようになったとかはありますが、うちの自治会ではそんなに感じないですね。特に大きな揉め事も無いし、新しい世帯も入ってきてくれていますからね。

■色々喋るよりも、聴くことに力を入れると、結果的に、たくさんの情報が集まって、信頼関係ができてくる。災害とか、いざという時に役に立つ関係が構築できると。長谷川さんは最初から話をよく聴かれているから、皆さん本音で話してくれているんでしょうね。

今日は、インタビューさせていただいたというより、私の方がお話を色々聴いていただいた感じですよ(笑)。ありがとうございました。

日吉台5丁目北自治会

自治会長 渡辺 邦孝さん

に聴きました



■渡辺さん、ご出身はどちらですか？

大学までずっと名古屋なんです。名古屋ドームに歩いて行けるぐらい近くのところですよ。子どもの頃は、ホテルが飛んでいる野山で遊び回ったり、ザリガニを採ったりする普通の子でしたよ。僕はあんまりやんちゃしてないから他の人みたいに面白いエピソードはないですよ（笑）。

物をつくるのが好きな子でしたね。自宅の隣が鋳物工場だったから使い終わった土の塊みたいな鋳型をちょっと頂いてきて、削って色んな形にして遊んでました。今も物作りが一番性に合っていて、退職してから趣味で電気工事士の資格を取りました。料理するのも好きで夕飯は当番制にして一日おきに作っています。料理好きはおやじが釣好きで魚を捌くのを見ていた影響もあるかもしれませんね。

■どちらに就職されたんですか？

数学と物理が嫌いで、文系も大嫌いだったから名古屋大学で応用化学を学んでいました。名古屋市の公務員の一次試験も受かったんですが、先生に「公務員はつまらないよ」と言われて、昭和49年にガラス製造会社に就職しました。伊丹の研究所でガラスではなくて新規事業として建材関係をやっていました。でもね、化学で役に立ったことなんて1つもない（笑）。

■地域との関わりはいつ頃から？

市原の工場に移ることになって、日吉台には昭和60年に越してきました。50代の頃は土日も休めないくらい仕事が忙しくて、自治会のことなんて全然考えられなかったですね。その頃は江戸崎の工場の管理者で、正月とか夏休みも普段できない設備の修理をやらないといけなくて。家のことも妻に任せきりでしたからね。

地域と関わるきっかけは、夏祭りだったんです。妻が自治会の理事をやっていた時、夏祭りをやらなきゃいけないということで「じゃあ俺も行くわ」と感じて。手伝い始めたら結構楽しくて、祭りの実行委員会に入るようになって。それからですね。自治会長は今から6年前に前の会長から相談があって、自治会の皆さんが構わなければということでお受けしました。

■日吉台に来てよかったと、おっしゃるのはなぜ？

みんないい人なんです。地域の活動で付き合い連中は。もともと地域のためと思って集まっている人たちですから。それに、日吉台って色々なところから人が集まった街なんですよ。空港関係者が多かったり、私みたいにちょっと変わった職業の人がいたりとか。色々な能力を持った人がいるから、ちょっと困ったなあと思っても誰かが出てきてくれるんです。

自治会以外でも色々な活動をさせてもらっているから、知り合いが1,000人くらいはいるんじゃないかな。会社を退職してからこんなに交友関係ができるなんて、思ってもいませんでした。72歳になりますけど、こうやって色々動けているのが若さを維持する秘訣でもあるかなと。

■日吉台のお祭りはいつ頃から？

今回が39回目で4年ぶりの開催でした。今は日吉台小学校の校庭を借りているんですけど、もともとは5丁目の公園でやっていたそうです。それが、楽しいから皆でやりたいねということで今の形に。主催は日吉台小学校区自治会連絡協議会（連協）なんですけど、祭りをやるためには色々なところとの交渉事もあるから連協ができたと聞いています。今は、そこの会長もやらせてもらっています。

連協は自治会以外にも学校関係、病院、商店会とかこの地域の色々な方がメンバーになっているので、ほかの地域で苦勞しているようなことも割合スツと解決できたりするんです。

■久し振りのお祭りはいかがでしたか？

今までの土日の開催から1日に変更しました。やる側も高齢化しているし、加入者も減ってきて担い手の問題もあるので、この祭りと2月の音楽祭はずっと続けていきたいくて、そのためには必要だと思ったので1日にすることを決断しました。久し振りなので寄付も集まるのかとか色々心配もありましたけど、若い子もたくさん来てくれて、他の地区から来た人には「自治会でやるレベルじゃないね」って言ってもらえました。おかげ様でたくさんの寄付もいただくことができました。次は40回なのでそこで私は引退です（笑）。

■今後の自治会について思うことは？

「やれる人がやらなきゃしょうがない」という思いは持っていますが、どこも自治会員は減っていますよね。高齢で役員とか自治会の事ができない方も増えています。自治会費の集金や回覧板とか今まで当たり前に行っていたことが結構しんどくなってきているんですよ。だから、そういうルーティン的なものは日吉台全体で事務局を作ってやろうと、動き始めたいと思っています。

■日吉台の30年後、40年後を考えることはありますか？

日吉台は市内でも高齢化が進んでいる地域なんですよ。「富里のお荷物にならないためにどうしたらいいかを考えないとダメだよ」って、よく話しています。うちも今は夫婦で車を1台ずつ持って、妻は趣味の社交ダンスもできています。でも、この先運転できなくなったり一人になった時の事を思うといつまでここに住み続けられるのかって考えますよね。「車がなくても生活できる移動手段の確保が必要だよ」って皆と話し合ってきているんです。規制とかバス会社との兼ね合いもあって難しいんですけど。

スマホ教室とかお年寄りのちょっとした困り事をお手伝いする「ちょこっとサービス」とか、集まってお話できるカフェとか、高齢者向けのことは色々やっています。カフェは社会福祉協議会が主体になって、今までそれぞれの自治会でやっていたのをまとめてやることにしました。そうすれば、ボランティアの方の負担も減らせるのでね。

■自治会だけでなく日吉台全体を見て、培った人脈を生かして組織や情報を繋ぐコーディネートをされていますね。

経理も人事も全部一人でやっていた事もあって、最後は子会社の社長も経験させてもらいました。人にどうやって動いてもらうのか、これはこの組織にやってもらうとうまくいくとか、地域運営も会社経営と変わらないのかもしれないですね。自治会や地域の活動って、大変なことも無くはないんだけど、いいなと思うことのほうが多いし、問題を解決していく過程がまた楽しい。もうこの歳だから怖いものないしね（笑）。

トークス 2
Talks

富里市区長会
区・自治会長インタビュー集

編集・発行

富里市区長会

事務局

千葉県富里市七栄652番地1
(富里市総務部市民活動推進課内)

電話 0476-93-1117

FAX 0476-93-4123

令和5年10月発行